

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 武田 淳 03-3497-3676 takeda-ats@itochu.co.jp

アジア向けを中心に輸出が持ち直し貿易赤字縮小(7月貿易統計)

7月の貿易赤字は、輸入を上回る輸出の増加により小幅ながら縮小した。輸出はアジア向けを中心に数量ベースでも持ち直した。一方の輸入は増加が続いているものの勢いは弱まっている。輸出に持ち直しの動きが見られ、輸入の増勢が弱まっていることから、貿易赤字が大幅に拡大する可能性は低下している。

貿易赤字は小幅縮小

7月の貿易収支は、輸入が前年同月比+2.3%の7兆1,526億円となった一方で、輸出が前年同月比+3.9%の6兆1,886億円となり輸入を上回って増加したため、赤字幅が前年同月の1兆325億円から9,640億円へ685億円縮小した。

季節調整値で見ても、7月の輸出は前月比+1.5%と輸入の+0.6%を上回って増加したため、貿易赤字は6月の1兆678億円から7月は1兆238億円へ小幅ながら縮小した。

貿易収支は6月に赤字幅が大幅に拡大したが、7月には輸入を上回る輸出の増加により、ひとまず赤字拡大に歯止めが掛かっている。

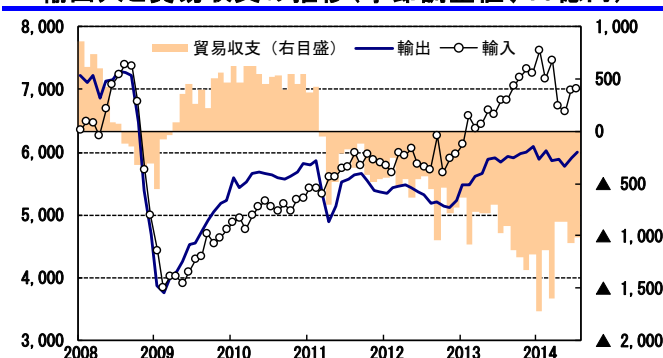
輸出：アジア向けを中心に数量ベースでも持ち直し

輸出が前年同月比でプラスに転じたのは3ヵ月ぶりであるが、数量要因と価格要因に分けて見ると、数量は+0.9%と3ヵ月ぶりのプラス、価格は+3.0%と2ヵ月ぶりのプラスとなり、価格の上昇のみならず、数量ベースでの持ち直しも輸出の増加に寄与した。

価格要因については、為替変動の影響が大きい。ドル円相場を前年同月比で見ると、5月は0.8%の円安、6月は4.6%へ伸びが高まり、7月は2.1%へ鈍化しているが、こうした動きが輸出価格へ若干のラグを持って反映されたと考えられる。

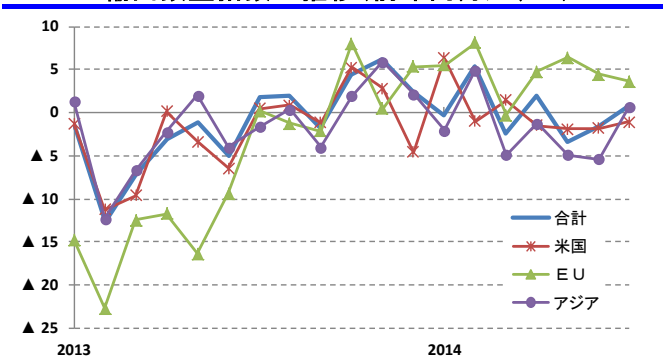
数量要因については、仕向地別の数量指数を見ると、米国向けは7月も前年同月比▲1.0%とマイナスが続いたが6月の▲1.8%からはマイナス幅が縮小した一方で、EU向けは前年同月比+3.6%とプラスを維持したが6月の+4.5%からはプラス幅が縮小している。また、アジア向けは6月の前年同月比▲5.4%から7月は+0.6%へ5ヵ月ぶりのプラスに転じた。中国向け（6月前年同月比+1.5%→7月▲1.0%）は逆にマ

輸出入と貿易収支の推移(季節調整値、10億円)



(出所)財務省

輸出数量指数の推移(前年同月比、%)



(出所)財務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

イナスに転じているため、NIEs 向けや ASEAN 向けが増加し輸出全体を押し上げたものとみられる。

アジア向け輸出は、金額ベースでも 6 月の前年同月比▲3.8%から 7 月は+3.4%へ大幅に改善したが、これを財別に見ると、それまで落ち込んでいた輸送用機器（6 月前年同月比 2.7%→7 月 15.8%）が船舶や自動車部分品を中心に大きく伸びを高め、半導体等電子部品や重電機器、電気計測機器などの電気機器（6 月▲5.5%→7 月 3.9%）がプラスに転じた。この両方で輸出改善の約半分が説明できるが、そのほか、化学製品（6 月▲4.9%→7 月 1.2%）が輸出全体を 0.9%Pt、鉬物性燃料（▲19.9%→▲2.6%）が 0.6%Pt 押し上げた。

輸入：底堅いが増勢は弱まる

7 月の輸入は、上記の通り前月比では 0.6%増加したものの、前年同月比では+8.4%から+2.3%へ大きく伸びが鈍化した。電気機器（6 月前年同月比+7.7%→7 月▲1.5%）や原材料（6 月 10.6%→7 月▲4.5%）などがマイナスに転じたほか、一般機械（6 月 14.2%→7 月 4.3%）、化学製品（6 月 10.9%→7 月 1.4%）などが大きく伸びを鈍化させるなど、幅広い分野で増勢が弱まった。

輸入の変化を数量要因と価格要因に分けると、数量が 6 月の前年同月比+7.2%から 7 月は▲0.4%と 2 カ月ぶりのマイナスとなったが、価格が 1.2%から 2.7%へ伸びを高めた。価格については、輸出と同様、為替相場の影響が大部分を占めると考えられる。数量については、ウインドウズ XP サポート終了に伴う駆け込み需要の反動により電算機類（6 月前年同月比▲2.4%→7 月▲15.9%）の落ち込みが加速したほか、鉬物性燃料のうち原油及び粗油（6 月+1.0%→7 月▲2.7%）や一般炭（6 月+11.6%→7 月▲3.7%）がマイナスに転じた。

以上の通り、7 月の貿易統計からは、輸出持ち直しの動きと、輸入の増勢が弱まっていることが確認された。今後も引き続き、輸出の持ち直し傾向が持続するのか、また、国内需要の回復に伴って輸入が再び増勢を強める可能性はないかについての見極めが必要であるが、貿易収支が今後、赤字幅を大幅に拡大させる可能性は低下していると判断できる。